

仙台市環境影響評価審査会 議事録（要旨）

■日時	令和3年6月1日（火） 9時30分～11時40分
■場所	仙台市役所二日町第二仮庁舎（MSビル）2階会議室（WEB会議形式）
■出席委員	山田会長，丸尾副会長，岩谷委員，菊池委員，小林委員，西條委員，齋藤委員，多田委員，廣木委員，牧委員，森本委員，横尾委員
■欠席委員	大野委員，松木委員，山口委員
■事務局	高橋環境部長，渡邊環境企画課長，及川地球温暖化対策推進課長，金久保環境共生課長，相田環境対策課長
■審議	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴ヶ谷第二市営住宅団地再整備事業に係る環境影響評価準備書について（諮問第71号） ・（仮）広域連系北幹線新設事業に係る環境影響評価準備書について（諮問第72号）
■報告	<ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）泉パークタウン第6住区開発計画に係る事後調査報告書（工事中その1）（案）について ・仙台市富沢駅西土地区画整理事業に係る事後調査報告書（供用時）（案）について
■事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者1 鶴ヶ谷第二市営住宅団地再整備事業 事業者 ・事業者2 （仮）広域連系北幹線新設事業 事業者 ・事業者3 （仮称）泉パークタウン第6住区開発計画 事業者 ・事業者4 仙台市富沢駅西土地区画整理事業 事業者
事務局	【次第1 開会】
事務局	・審査会成立報告
事務局	【次第2 資料確認】
事務局	・資料確認
山田会長	【次第3 審議】
山田会長	<p><<公開・非公開の確認>></p> <p>原則公開。ただし，個人のプライバシー及び希少な動植物の生息・生育場所等に関する事項があれば非公開とする</p> <p style="text-align: right;">→（各委員了承）</p> <p>議事録署名 西條委員に依頼</p> <p style="text-align: right;">→（西條委員了承）</p>
（審議1）	
山田会長	<p>それでは審議に入る。</p> <p>鶴ヶ谷第二市営住宅団地再整備事業に係る環境影響評価準備書について，前回の審査会における指摘事項に対する対応方針等を伺った上で審議し，そ</p>

	<p>の後、答申案について議論する。</p> <p>それでは、前回の審査会における指摘事項に対する対応方針について、資料1-1について、事業者から説明をお願いします。</p>
事業者1	(資料1-1について説明)
山田会長	ただいまの説明に対して、委員の皆様からご質問、ご意見をお願いします。
多田委員	資料1-1の10ページの植栽計画のところ、既存樹木の存置や新規樹木の植栽についての記載が削除されており、この文章では、既存樹木の量が足りない部分にも新しく植えないというように捉えられないか。
事業者1	現段階では、新規の植栽等について具体的な計画が定まっていないため、記載を削除している。今後の詳細設計で植栽計画の具体化を行うので、新規の植栽や既存樹木の存置については、しっかり検討してまいりたい。
山田会長	書かれてないと、何もされないのではないかと不安も生じる。評価書に、新たな植樹等の計画については今後検討する旨を記載するのは可能か。
事業者1	可能である。
山田会長	多田委員、いかがか。
多田委員	了解した。
山田会長	ほかにあるか。
	ここで事業者の方は退出を願う。
山田会長	それでは、答申案について審議する。
	事前に配付している資料1-2の答申案について、委員の皆様から、事前の意見がなかったが、この場で何か意見等はないか。
小林委員	全体事項の(1)について、「環境負荷の少ない住宅性能を目指すよう求めるべきである」の後に、「また」ということで、周辺の緑との連続性について書かれている。両方とも環境に関係することだが、事象としては違う内容であるため、2つに分けたほうがよいのではないか。
山田会長	妥当な考えだと思うので、そのようにしてもいいと思うがいかがか。
	(各委員了承)
	異論がないようなので、全体事項(1)を、この「また」の接続詞は削除し、「また」のところから(2)として改行し、全体事項を3つにして表示をするようにしたい。
山田会長	ほかにあるか。
	それでは、本日のご指摘をもとに、最終的な調整については私と丸尾副会長に一任いただくという形よろしいか。
	(各委員了承)
	それでは、そのようにさせていただきます。
(審議2)	

山田会長	次に、（仮）広域連系北幹線新設事業に係る環境影響評価準備書について、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>本準備書については、5月21日から1ヶ月間縦覧を行っており、意見書の提出期限は7月5日までとなっているので、意見書の有無及び内容については、次回の審査会で報告する。</p> <p>準備書の内容については、別冊資料2に基づき、事業者から説明をお願いします。</p>
事業者2 山田会長 牧委員	<p>（別冊資料2に基づき説明）</p> <p>ただいまの説明に対して委員の皆様からご質問、ご意見をお願いします。</p> <p>植物について、影響予測結果のところ、「本種は宮城県内及び仙台市内の山地から丘陵地において広く分布し」とか、「普通種である」とかの記述があるが、これはどのような根拠に基づいて記述されているのか。</p>
事業者2 牧委員	<p>根拠としては、実際に現地調査の段階で広く分布しているかどうか、また、学識者の先生方に実際に広く分布しているかどうかを確認した。</p> <p>例えば、キンセイランが宮城県内に広く分布しているというような記述があるが、東北大学の植物園には8点しか標本が入っていない。それもほとんど地域が集中しており、大体、太白区近辺か、栗駒だけである。こういった状況からすると、広く分布しているという記載は適切かどうか。タチガシワも普通種となっているが、現地ではほとんど見ないし、標本もとても少ない</p> <p>学識者がどなたか分からないが、実際に標本に基づいて結果を見る限りでは、とてもここに書かれているような、普通種であるとか、広く分布しているというのには同意できない。もしそのように記述するのであれば、必ず根拠を示していただきたい。</p>
事業者2 小林委員	<p>了解した。</p> <p>景観について、先ほどのご説明の中で、既存の鉄塔と違う塗色にすると目立ってしまうという話があったが、より目立たない普通の方法があるのであれば、それを選択しない理由がない。どういう比較をして既存に合わせたかということを示していただく必要がある。写真を見ると、例えば、空が明るいときは白いほうが空に溶け込んでいいのではないかと感じるし、空が暗いときもどのみち陰なので、より白かったらいいのではないかと思う。既存と同じ塗色ならよいというのは、景観に配慮したことにはならない。</p> <p>次に、廃棄物について、今回、工事用道路をつくるときに伐採した木材が出てくると思う。準備書では、土留め等に使うと書かれてあるが、どのくらいの量が出て、どのくらい使えるかというような見込みを教えてください。また、本事業は環境的なインパクトが大きいので、少しでもリカバーするというような視点で、例えば、パレットにして燃料に利用するなど、総合的に考</p>

事業者2	<p>えてほしい。</p> <p>景観について、既存の鉄塔があるところでの見え方は、ご指摘を踏まえ、もう少し検討していきたい。</p> <p>伐採木の産業廃棄物処理化については、まだ計画段階ではあるが、チップ化などもいろいろ検討して、評価書までにはある程度お示ししたい。</p>
小林委員 森本委員	<p>了解した。</p> <p>工事中の重機の稼働に伴う大気中の二酸化窒素の濃度予測が、1時間値では0.076ppmとかなり高い値になっている。この熊ヶ根地区では普段はほとんど二酸化窒素が出てないところで、この工事の寄与が非常に大きいと思う。できるだけ工事工程を調整して、この数字以下になるようにしていただきたい。</p> <p>また、あくまでこの数字はモデルで計算された結果なので、実際どうなのかというのもぜひ見ていただきたい。準備書を見ると、最初の事後調査は令和6年ということだが、これは熊ヶ根周辺の工事の集中時期の1年後になってしまう。これでは二酸化窒素の濃度がどうだったということは分からないので、工事が集中する時期である13か月目にモニタリングを実施していただきたい。その結果、もし濃度が非常に高いようであれば、工程調整等を検討いただきたい。</p>
事業者2	<p>二酸化窒素の予測については、確かにモデル計算なので、実際どうなるかというところをモニタリングしたい。</p> <p>また、実際の工程調整もしていきたい。</p>
西條委員	<p>準備書8-543ページ、廃棄物について、基礎工事の際の捨てコン等から、コンクリートくずが発生するとあるが、この捨てコンとは何か。捨てコンを打ったときの残りという意味か。</p>
事業者2	<p>基礎の掘削工事の際にライナープレートという土留め工を行う。そのライナープレートを地表面上で固定するためにコンクリートを鉢巻き状に巻いたものが、最終的にはコンクリートくずという形で発生するということが記載されている。</p>
西條委員	<p>了解した。</p> <p>準備書に記載のコンクリートくず2,680トンは全てそのコンクリートでよろしいか。それ以外に、例えば、基礎工事などで生コンを打設したときに残留生コンが残ってしまう現象も起こることがあるが、その辺は含まれていないのか。</p>
事業者2	<p>その辺は含んでいない。先ほど申し上げた土留めで使うものを数字として挙げている。</p>
西條委員	<p>仮土留めで発生するというのを、記載したほうがよい。一般的に捨てコ</p>

事業者2
齋藤委員

ンという、打ちっぱなしで壊さずに、そのまま埋めてしまうイメージがある。

表現については検討する。

8-545ページの廃棄物について、木くず77トンについては適正処理するという、有効利用はできないという位置づけとなっているが、その理由を伺いたい。また、この評価結果で、「法令に基づき適正に処理するため、環境への負荷は小さいものと考えられることから」との記載があるが、例えば、有害物質などで基準値以下というようなことであればこの表現でよいが、木くずに関しては、こういった表現はあまり適さないと思うので、改めていただきたい。量的にも77トンということで、今回の工事の中では、相対的に小さいという理解だと思うが、今回の工事は大規模で広範囲となっているので、負荷が小さいとは言えないのではないかと思う。

事業者2

木くずについては、主に送電線のがいしの梱包材が木の枠で入ってきたり、電線を巻くドラムのところで木くずが発生したりする。環境への負荷は小さいという表現については、検討し、適切なものにさせていただく。

牧委員

移植をすることが植物のところに出てくるが、かなり移植の困難なものが含まれていると思う。その辺をどう考えているか。

事業者2

移植する種については、種ごとに学識者の先生と相談しながら、その適切な時期、適切な場所を検討しながら実施したいと考えている。

牧委員

植物の移植について、ラン科の植物のように、菌根の菌との共生をしているものとかが含まれているので、そういったものはかなり困難が伴うと思う。それを簡単に移植すると書かれてしまうと、本当にそれで大丈夫なのかと危惧するので、必ず科学的な根拠に基づいた記述をお願いしたい。

事業者2

了解した。

岩谷委員

8-79ページあたりからの騒音について、秋保地区も熊ヶ根地区も民家があって、工事の場所がいろいろ変わるということで、工事の予定が8-82ページや8-84ページに書いてあり、それぞれの鉄塔の工事で最大の月を選定して1つの値で評価しているが、1つだけでは少し不安だ。例えば、熊ヶ根地区では何か月日から何か月日まで工事があり、その月ごとの最大のデシベルを横軸が月のグラフで表してもらえば、このときは静か、このときは大きいというのが直感的に分かりやすくなるので、検討いただきたい。

事業者2

8-82ページに、音響パワーレベルの月別のグラフはつけているが、今のご指摘は、騒音値の月別に見やすくしたものということか。

岩谷委員

8-82ページのグラフは、鉄塔ごとのパワーレベルになっているので、工事が重なっているところを評価していない。せっかく工程が鉄塔ごとに細かく書いてあるので、月ごとの最大のレベルが評価できるのではないか。

事業者2	例えば、熊ヶ根地区では、最大月の13か月目で予測している。最大のところは把握ができているとは思いますが、その前後についても予測して、流れが見えるような形で記載するということか。
岩谷委員	その方が、データが読みやすいのではないかと思う。1つの値だと、どの時期なのか読み取るのが難しい。
事業者2	了解した。検討する。
丸尾副会長	8-547ページからの温室効果ガスについて、今回は、運搬に係るCO ₂ の評価だけだが、道路の建設などに伴い森林伐採がかなりあると思うので、それに対するCO ₂ の予測もお願いしたい。
山田会長	趣旨としては、森林伐採によって固定されている二酸化炭素が解消されてしまう。その損失分と理解してよいか。
丸尾副会長	そうである。
事業者2	検討する。
多田委員	<p>8-339ページのフクロウについて、今回、クマタカをメインでいろいろ調べていると思うが、猛禽類の中でもフクロウは、結構古い木の穴が開いているところに巣を作って子供を育てている。今回の準備書で、樹林環境の改変率は約3%に留まるから影響がない、というような表現が多く使われている一方、今回の影響する場所は、落葉広葉樹林が大きいようだが、その3%の中にどういう木が含まれているかがはっきり分からない。例えば、そういった動物が生きられるような、すぐに再生できない何十年や百年クラスの大木を伐採しないようにするか、代わりに巣箱を設置するか、そういった対策もお願いしたい。</p> <p>また、今回はトウホクサンショウウオを移殖するということだが、他の環境アセスメントの事例でも移殖がうまくいってないケースが結構見られている。単純に移殖というのは、どこか環境の違うところに移しているだけだと思うが、場合によっては、人工的に飼育して増やしている例もあるようである。そういった組合せをしながら、種の保全に対応していただきたい。先ほど話したように、古い木などを残すのが一番だが、単純に3%というように、量的に捉えるのではなくて、どの種が、どの年齢の、どういう特徴を持っている木があるかということでその生き物の暮らしが変わってしまうので、その辺も踏まえて対策を講じていただきたい。</p>
事業者2	<p>フクロウに関して、特に改変域では、細かくどういう木があるかを確認しながら調査をしており、今のところ、改変域の中にフクロウが使うような大きな樹洞があるような木というのは確認されていない。記載方法については、今後検討したい。</p> <p>また、移殖だけではなく飼育なども併用して増やしてから放すのはどうか</p>

山田会長

という点についても、専門家に相談しながら、これから検討していきたい。

今の飼育の件は、フクロウに限った話ではなく、希少種がいた場合にはそのような手法もあり、それも積極的に採用すべきではないかというご意見であるので、誤解しないようにしてほしい。

事業者2

了解した。

横尾委員

8-189と190ページの電界と磁界について、調査結果が記載されているが、実際にその平均値と最大と最小の情報を書いていただくことは可能か。

事業者2

電界値、磁界値それぞれについては、平均値という捉え方をしておらず、最大値が規定値を超えていなければ基準値内という記載にしている。

横尾委員

一般的にはそれでよいが、情報としてはあまり価値がないのではないか。基準というのは、基本的には時間とともに変化するもので、ただこれが測ったとき、あるいは同じ条件で測っているものについて、どういう範囲で変動し、普通はこれぐらいだというのが値として分かっている、それが現状の基準以内であるというほうが、提供する情報としては価値があると思う。例えば、その情報を後世が利用したいとなった場合に、3未満というのは、何も使えない情報になってしまうので、生データを全部というのは無理だと思うが、せめて平均、最大、最小ぐらいは示していただきたい。

事業者2

了解した。データの示し方について検討し、評価書に反映する。

山田会長

ほかにあるか。

それでは、追加の意見等があれば、後ほど事務局にご提出をお願いします。

今回は、本日の意見等について事業者の対応方針をお示しいただき、さらに審議を重ねたいと思う。

(報告1)

【次第4 報告】

山田会長

次に報告に入る。

(仮称) 泉パークタウン第6住区開発計画に係る事後調査報告書(工事中その1)(案)について、事業者より報告をお願いします。

事業者3

(資料3について説明)

山田会長

ただいまの説明に対して委員の皆様からご質問、ご意見をお願いします。

多田委員

水質について、工事中の濁水を八沢川調整池に入れるということで、SSに関してはよいと思うが、窒素やリンなどの水質に関してのデータは取られているのか。

事業者3

SS以外の数値については、具体的には調査を実施していないので、提示できる内容はない。

多田委員

こういった汚泥がだんだんたまっていくと、そこで富栄養化などが起こることもある。急激には起こらないとは思いますが、モニターしていただいたほう

事業者 3

が、周辺への環境影響を把握できると思う。

ご指摘のリンなどの水質の情報は、その従前の調査をしていないので、それとの比較という形で提示はできないが、ご指摘を踏まえて対応については検討する。

山田会長

特に山林域からの土壌流出に伴った、窒素の富栄養化項目は今回対象になっていなかったと思うが、やはりそれが懸念されるような状態に今なってしまうということ踏まえて、積極的にその辺の説明ができるような情報収集に努めてほしい。

横尾委員

調整池自体は、雨が降ったときに一時的に貯留するという機能もあるが、そこにちょうど土砂が発生しやすい時期が重なることもあり、どれくらい流入するか分からないが、ある程度予想を立てるなり、時々モニタリングするなりして、あまり大きな影響が出ないように対応いただきたい。

事業者 3

もともと八沢川調整池は、隣接する寺岡地区を造成したときに造ったもので、かなり古い調整池ではあるが、今回工事をしている東工区の50ヘクタールの流域を見込んだ貯留容量が確保されているので、水の量という意味では、計画上問題ないということと管理者と話をしている。ただ、ご指摘のとおり、計算上もつから大丈夫だというわけではないので、適宜、状況については調査する。

また、最終的に土が流入してしまっ、堆積土砂が増えてしまう懸念があるので、その点についても管理者と話をしており、流入相応分の土砂を最終的には除去することを考えており、貯留能力を懸念するような形にはならないと考えている。

山田会長

環境保全措置として、しゅんせつなどが生じると思うので、結果的に廃棄物処理として、泥の部分をどうするのかも踏まえて報告できるようにすること。

事業者 3

了解した。

山田会長

それでは、この件については以上とする。

本日の意見等を踏まえ、事後調査報告書の作成をお願いします。

(報告 2)

山田会長

次に、仙台市富沢駅西土地地区画整理事業に係る事後調査報告書（供用時）（案）について、事業者より報告をお願いします。

事業者 4

(資料 4 について説明)

山田会長

ただいまの説明に対して委員の皆様からご質問、ご意見ををお願いします。

西條委員

景観について、資料 4 の 4. 10-12 と 4. 10-13 ページの予測結果の写真と事後調査の写真を比べると、歩道に街路樹の低木がないような状態になっているが、今後、植栽する予定はあるか。

事業者 4	道路管理者との協議の中で、管理上、また道路の乗り入れ等の仕様上、低木は無くなっている。高木については植樹しており、まだ育っていない状況である。
小林委員	景観について、今の乗り入れの話もあるが、例えば、舗装は予測だとインターロッキングのように見えるが、現状の雰囲気は違っている。1-43ページの表1.6-9で景観に係る環境保全措置の実施状況という表があるが、評価書で検討した保全措置の最後のところで、例えば、街路樹の整備及び公園等の整備によって、緑のコリドーを形成するというような書き方をされている。緑のコリドーというと、4.10-13ページの上の予測時の写真のような状況だと思う。現状の写真だと、緑のコリドーが形成されているように見えない。道路管理者との協議によってこの形になったのでよい、という話でもないと思うが、どうお考えか。
事業者 4	緑のコリドーについては、低木ではなく高木を連続させるということで、対応している。
小林委員	この写真の場所を逆側から車で来ると、割合アスファルトはきれいにできているが、あまり緑の感じがしない。一方で、もう少し進んでいくと、低木があるが、逆にメンテナンスができておらず、やぶになってしまっているところも見受けられる。運営上、やぶにならないようにするのが難しいというのも理解はできなくないが、そのようなメンテナンスも含めて緑のコリドーだと思う。まだ育っていないが高木で対応しているということだが、それでは緑のコリドーと言えないのではないか。今後、運営されていく中で、どのような景観としていくか、そのあたりの考えを聞かせてほしい。
事業者 4	土地区画整理組合としては今年度解散してしまうので、組合としてこれ以上、緑化対応するという事は難しい状況である。ご指摘の部分の緑地の部分については、これから仙台市の道路部局で管理されていく。組合の解散に向けての移管の協議を終えているので、そういった意見があったということは組合として引き継ぐ形で伝達することまでしかできない状況である。
小林委員	現実、対応できない状況もあると思うが、そういった状況等を含めて、納得できるような理由を示してほしい。精いっぱいやっている結果がここに残ればいいが、この点については失敗しました、あとは仙台市に預けるので、などと言われると、次への糧にならない。もう少し、その辺りの情報を入れていただきたい。
山田会長	例えば、4.10-10, 4.10-11ページで事後調査結果の比較が出ているが、この中で予定していたものが賄えなかったのであれば、きちんとその説明をして入れておいていただくのが適切な報告書になろうかと思うが、いかがか。

事業者 4	事後調査の結果、そこまでに至らなかったという内容についての文言を追記する形で検討する。
山田会長	この報告書を参考にして、別の事業の計画が立てられたときに、予定どおりの景観をなすために何をすべきかというのをしっかりと踏まえていただかなければいけないので、そのための情報提供として、報告書の内容の充実をぜひ図ってほしい。
事業者 4	了解した。4. 10-14, 4. 10-15ページの幹線道路の両側について、低木も含めた植栽はしているので、そういうのも含めてコメントの修正をさせていただく。
西條委員	景観について、事後調査の写真を見ると、プランターにするような予定も一切なく、沿線のところをすべて舗装してしまっていて、ここを今からプランターにするとすれば、もう一回工事をやり直さなければいけないというような状況なので、その辺の経緯はきちんと説明していただく必要がある。4. 10-14, 4. 10-15ページについては、低木も写っているが、4. 10-12, 4. 10-13ページでは、すっぽりと抜けてしまっている。この辺については、きちんと説明していただきたい。
山田会長	事業者は、しっかりとただいまのご意見を踏まえて、報告に説得力を持つような説明文の追記をお願いします。
山田会長	他にないか。 それでは、この件については以上とする。
山田会長	本日の意見等を踏まえ、今後の事業計画の検討をお願いします。 【次第5 その他】 それでは、次第5のその他に移るが、何かあるか。
事務局	【次第6 閉会】 本日の審査案件に対する追加意見は、6月8日（火）まで 《審査会終了》

令和3年 8 月 12 日

仙台市環境影響評価審査会会長

氏名 山田 一 裕

仙台市環境影響評価審査会委員

氏名 西條 由紀子